

事項一三 独逸ノ対独平和条約違反ニ関スル件

八一八 三月十六日

在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

独逸各地ニ於ケル聯合國軍事監督委員ニ加ヘ

ラレタル危害及凌辱ニ対シ執ルベキ措置ニ付

大使會議ニ於テ審議ノ件

第四五六号

（三月十八日接受）

大使會議第十九（三月十三日）

國際聯盟理事會ト同時開ナリシニ依リ安達公使出席ス先般
來獨逸各地方ニ於テ聯合國軍事監督委員ガ獨逸軍人及人民
ヨリ蒙リタル危害及凌辱ニ関シ獨逸政府ニ対シ執ル可キ措
置ニ付議スル為會議ヲ開ク同日獨逸政變ノ報アリタルモ
「ミルラン」ハ仮令獨逸ニ於テ如何ナル政府ガ立ツトモ本
件ハ敏速且嚴重ニ獨逸政府ニ対シ

(イ)八日以内ニ伯林（「ブレンツライ」）「ブレメン」（「フリ
ーザック」）軍隊司令官ハ軍隊ノ面前ニ於テ獨逸官憲ノ聯
合國監督委員ニ対スル陳謝狀ヲ朗誦スルコト右陳謝狀ハ監
督委員ノ駐在スル地方ノ新聞ニ公表スルコト

(ロ)十五日以内ニ凌辱又ハ危害ヲ加ヘタル犯人ヲ訴追スルコ

ザル時ハ聯合國ハ獨逸政府ハ條約ヲ實施スルニ反對スルモ
ノト思量ス可シトノ一句ヲ加ヘテハ如何ト述ベ「ミルラン」
ハ一地方ノ占領ノ如キ制裁ハ必ズシモ之ヲ以テ戰爭ト認ム
ルヲ得ザル可シト述ベタルガ英國大使ハ此ノ際獨逸ニ対シ
脅迫ヲ加フルハ大イニ考ヘモノナリ又獨逸拒絕ノ場合ニ対
スル戰意ト決心ハ徹底ノモノタルヲ要スルヲ以テ此ノ点
ニ関シテハ一應政府ノ訓令ヲ求メタシト述ベ本件ハ全部來
ル十六日再議スルコトナレリ

尚同日ノ會議ニ於テ洪牙利條約案ニ対スル洪牙利政府ノ對
案ニ対スル「ヴェルサイユ」軍事會議ノ回答案ヲ採用陸軍
條項ハ大体原案維持ノコトニ決定シタリ
在歐米各大使ヘ転電セリ

八一九 三月十八日

在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

獨逸ニ於テ聯合國軍事監督委員ニ対シ加ヘラ

レタル侮辱危害並獨逸ノルール地方ヘ軍隊増

派要請ニ関スル大使會議ノ討議報告ノ件

第四九〇号

（三月二十一日接受）

大使會議第二十一（三月十六日）

一三 独逸ノ対独平和条約違反ニ関スル件 八一八

ト聯合國監督委員ハ右裁判ニ臨席シ判決ハ新聞ニ公表スル
コト

(ハ)危害ヲ蒙リタルモノニ対スル金銭上ノ賠償

(ニ)尚將來ニ対シ獨逸政府ハ聯合國監督委員ガ獨逸軍人又ハ
人民ヨリ侮辱又ハ侵略ヲ蒙ラザル可キ精神上及物質上ノ保
証ヲ与フルコトヲ要求スルコトヲ提議シ英國大使ハ「フォ
ッシュ」元帥ノ提議ハ至極尤モナルガ同時ニ獨逸政府ガ之
ヲ拒絕スル場合ニ処スル決心ヲ為シ置カザル可カラズト述
ベ「フォッシュ」元帥ハ結局兵力ヲ以テ之ニ臨ム外ナカル
可シト述ベ伊國大使ハ再ビ獨逸ト開戦スルニ至ル如キ事態
ニ付テハ政府ノ考量ヲ待タザル可カラズト謂ヒ当日本使ハ
國際聯盟理事會ニ出席シタルヲ以テ安達公使代リテ本會議
ニ列席シ既ニ發生シタル事件ヲ処理スルハ必要ナリト雖モ
獨逸ガ要求ヲ斥クル場合ニ彼ニ対シテ執ル可キ手段ニ関シ
テハ元ヨリ獨逸ガ政變ノ渦中ニアルニ鑑ミ慎重ニ考量ス可
キモノナリト信ズト述ベ「フォッシュ」元帥ハ然ラバ前記
ノ要求ノ次ギニ若シ獨逸政府ガ聯合國ノ要求ニ満足ヲ与ヘ

往電第四五六号大使會議々事

聯合國軍事監督委員ニ加ヘラレタル侮辱危害ノ件ニ関シ英
國大使ハ先刻倫敦ヨリ接到セリト十五日最高會議ハ本件
ニ付目下何等ノ措置ヲ執ル時期ニ非ズト決シ右ノ趣ハ仏國
大使ヨリ巴里ニ報ゼラレタル旨英國政府ノ電報ヲ讀ミ右ハ
前夜仏國政府ノ接シタル電報トハ多少ノ齟齬アリタルガ
「ミルラン」ハ獨逸ニ於ケル革命ノ成行如何ニ拘ラズ此際
聯合國ガ本件ニ対シ執ル可キ措置ヲ明カニシ置クニ非ザレ
バ今後條約ノ實施ハ益々困難ヲ加フベシト説キタルガ伊國
大使ハ右ハ至極尤ナルモ唯今本件ノ要求ヲ持出シテハ却テ
「クーデタ」ヲ行ヒタル獨逸保守派ノ氣勢ヲ添フルヲ恐レ
本使ハ実行上ノ問題トシテ目下ノ処獨逸何レノ政府ガ果シ
テ聯合國ノ要求ヲ滿タシ得ル実力ヲ有スルヤ不明ナリ而シ
テ一旦要求ヲ提出スル以上ハ之ヲ貫徹スルニ堅固ナル決心
ヲ要ス之ガ為ニハ実力ヲ以テ後援ヲナスノ覚悟ナカル可カ
ラザル処最高會議ノ意嚮モ前記ノ如クナルニ於テハ暫時形
勢ノ推移ヲ觀望スルノ外ナカラント述ベ白耳義大使モ略同
感ナリシヲ以テ「ミルラン」モ暫ク決定ヲナサザルコトニ
同意シタリ次ニ「ミルラン」ハ獨逸新政府ハ「ノレー」將

軍ニ対シ「ルール」地方擾乱ノ模様アルニ依リ中立地帯守備兵増加ヲ許可サレンコトヲ求メ仏国政府ハ同將軍ニ追ッテ「フォッシユ」元帥ヨリノ命令ニ接スル迄右要求ニ応ズ可カラザル旨回訓シ同時ニ「フォッシユ」元帥（占領軍各國司令官會議ヲ開ク為「マイエンス」ニ出張中）ヘハ本件ハ聯合國政府ニ提出シ其考量ヲ求メタルガ仏国政府ノ意見ハ独逸ノヴェルサイユ平和条約第四十三条ニ反スルモノニシテ承認シ難ク且聯合軍ノ安寧ヲ維持シ独逸政府ガ不充分ト認ムル中立地帯ノ警察力ヲ増加スルハ聯合國ガ為スベキ事項ナル旨ヲ送りタルヲ述ベ条約実施以來独逸ノ仕打ニ見ルニ兎角言フ左右ニ托シ誠実ニ条約ノ義務ヲ履行セズ条約違反ハ日ニ相續ク有様ナリ之ヲ此ノ儘ニ推移セシムルニ於テハ条約ノ実施ハ不可能トナル可シ今日ハ聯合國ガ益々結束ヲ加ヘ一意実施ヲ強要スベキ時ナリ予ノ考ニテハ最早言論ノ時ハ過ギテ実行ノ時至レリト思フト語リ氏ノ所説ハ近來英國ガ犯罪人引渡其他ノ事件ニ関シ仏国ノ主張ト異リ条約ノ実施ヲ緩和スルガ如ク世間ニ伝ヘラルル点ニ付幾分か英國ノ注意ヲ喚起セントシタルガ如ク聞エタリ英國大使ハ条約ノ完全ナル実施ヲ求ムル為尽力スル点ニ於テ自分ハ

何人ニモ劣ラザル積ナリ侮辱事件ニ付テハ海軍監督委員長「チャールトン」提督ハ已ニ独逸外務省ニ対シ「フォッシユ」元帥案ト略同一ノ要求ヲ提出セリ將又独逸ノ条約違反ハ之ヨリモ甚ダシキモノアリ三月十三日保守派ノ革命ヲ幫助シ伯林ヲ警備セル第二海軍「ブリゲード」ハ監督委員ノ決定ニ依リ解隊サル可カリシモノナリ要スルニ聯合國ハ早晩之等ノ条約違反事項ヲ一括シテ独逸ノ反省ヲ求ムル必要アル可シト述ベ伊国大使及本使モ条約履行ノ必要ナルコト竝両政府共従前同様一致協力ノ方針ヲ維持スルモノナルコトヲ述ベ白耳義大使ハ自分ノ有スル報道ニ依レバ該地方ニハ騷擾ナシトノコトナレバ旁々同地方ニ独逸兵ヲ進ムル理由ナシト思考スト云ヒ更ニ「ミルラン」氏ノ言ハレタル実行ノ手段トハ如何ナルコトヲ指サヤト問ヒ「ミルラン」ハ唯「フォッシユ」ニ一任スベキノミト云ヒ英國大使ハ然ラバ今直チニ此手段ヲ行ハント言ハルヤト問ヒ「ミルラン」ハ今ヤ聯合國ハ条約ヲ改正スベキヤ条約ヲ嚴正ニ履行スベキヤ二個ノ政策ニ関シ分歧点ニ立テリ而シテ仏国政府ハ全力ヲ以テ（*engagement*）条約ヲ嚴正ニ履行スルニ決セリ仏国政府ハ条約履行ハ独逸ニ取り幾多ノ難件ト經濟

上ノ苦痛アルハ熟知スル所ナルガ聯合國ヨリ独逸ニ資金及原料ヲ供給シテ独逸ガ回復セバ独逸ハ其債務ヲ果サザル可カラズ要ハ独逸ニ愚弄サレザルニ在リト云ヒ（右ハ何トナク英國近來ノ政策ヲ非難シタルガ如ク聞ユ）更ニ進ンデ氏ハ今日聯合國ガ条約ヲ尊重セシムル為ニハ何等カノ抵当ヲ取ルカ又ハ占領ヲ行フニ在リト云ヒ英國大使ハ然ラバ独逸ガ「ルール」ニ兵ヲ入レザルニ先ダチ聯合國ガ之ヲ占領スト謂フニ在リヤト問ヒタルニ「ミルラン」ハ独逸ハ聯合國ノ回答ヲ俟タズシテ兵ヲ入ル可キヲ以テ我先ヅ進入スベキモノト信ズト述ベ英國大使ハ之ハ本国政府ニ請訓スル外ナシ但シ英國政府ヨリ訓令アル迄ハ英國兵ハ共ニ中立地帯ニ進入スルコトヲ為サザル可シト謂ヒ伊国大使ハ該地方ニハ伊国兵ナキヲ以テ同地方ノ占領ニハ参加スルコト困難ナル可シト謂ヒ（脱）大使モ同様参加シ能ハザルモ之ヲ政府ニ報告スベシト述ベ白国大使モ政府ニ請訓スベシト答ヘタリ尚右討議ノ次第ハ頗ル重要ナレバ（脱）「コンミュニケ」以外何等新聞ニ發表セザルコトニ決ス本使ハ會議終了後英國大使ニ対シ右「ミルラン」ノ提案ハ英國政府ノ同意スル所ナル可キカト問ヒタルニ「ノー」ト答ヘ「ミルラン」ノ

心底何処ニ在ルヤヲ知ラント欲シ之ヲ突キ止メントシタルモ果サズ甚ダ了解ニ苦シムト答ヘタリ察スルニ近來議會ニ於テ条約違反ニ関シ詰問アリ十八日ニハ政府ニ対シ質問アル可キ筈ニ成リ居リ（両三日來独逸ノ形勢ニ顧ミ或ハ数日ノ延期トナルヤモ計リ難シ）又一方英國ニ対スル不滿モアリ旁々「ルール」河谷ノ石炭ハ當國ノ属目スル所ナルヲ以テ「ミルラン」ヨリ右ノ如キ意見ヲ發表シタルモノカト思ハル尚「ルール」河谷占領ニ関スル問題ニ関シテハ往電客年講第二四八八号参照アリタシ在英米独伊ヘ転電セリ

八二〇 三月十八日

在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ルール地方ヘ独逸軍増派ニ関スル同國ノ要請

ニ関シ首相會議討議ノ件

第二一八号

（三月二十一日接受）

今十八日午後首相會議中「カーゾン」卿ハ昨夜在倫敦独逸代理大使來訪本國政府（旧）ノ訓令ニ基キ左ノ請求ヲ申入レタル旨ヲ語レリ

中立地帯タル Ruhr 河流域（「キッセン」地方）ニ於テ炭

坑々夫峰起シ軍隊ニ暴行ヲ加ヘ将校ヲ殺害シ「ソヴィエツト」政府ヲ創設セントスルノ形勢アリ速ニ鎮圧救済ヲ講ゼザル時ハ重大ノ危局ヲ来ス可クサリナガラ若シ此ノ際同盟側ノ進軍占領ヲ計ルガ如キハ一層民心ヲ激昂セシムル結果益々時局ノ危殆ヲ激成シ為ニ政府ノ顛覆ヲ見ルニ至ル可キガ故ニ独逸政府ニ於テ歩兵六大隊騎兵二「スクワード」ロシ」砲兵三「バタリー」ヲ限り且十五日以内ニ撤退ノ条件ノ下ニ右中立地帯内ニ出兵ノ許可ヲ得タシ云々

而シテ同卿ハ右ニ対シ急速回答ノ必要上首相會議ニ於テ其方針ヲ定メラレタキ旨ヲ以テ議場ノ意見ヲ求メタリ仏國側ハ独逸政府ノ申込ヲ拒絶スベキハ勿論独逸ノ条約不履行ニ対スル制裁ノ一手段トシテ同盟軍ガ右地帯ヲ占領スルノ權利アル事由ヲ述ベ暗ニ進軍占領ヲ賛成スル如キ意ヲ仄メカシタルガ英國側ハ絶対的反対ノ態度ヲ執リ万一同盟軍ニ於テ同地帯ニ侵入スル如キハ一般人民ノ敵愾心ヲ惹起シ却テ過激派ノ氣勢ヲ助長シ露國ニ於ケル覆轍ヲ踏ムニ至ル可ク一面ニ於テ歐洲中央ニ過激派勢力ノ樹立ハ極力之ヲ排斥セザル可カラズトテ速ニ敍上独逸政府ノ申込ニ応ズ可シトノ意見ヲ述ベタリ結局仏伊側ニ於テ政府ノ訓令ヲ俟ツコトニ

決セリ

會議ノ詳細ハ議事録入手次第報告スベキモ右一点ハ独逸政變ノ情報トシテ抜萃電報ス
在欧米各大使ヘ転電セリ

八二一 三月十九日 在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルール地方ノ中立地帯ニ軍隊ヲ増派シタキ旨
ノ在仏独逸代理大使ノ申出ニ付大使會議ニ於
テ審議ノ件

別電 三月二十日松井大使宛内田外務大臣宛電報第四九五号
在仏独逸代理大使ヨリ仏國外務省ニ提出セル本國政府ノ訓電要領

第四九四号 (三月二十一日接受)

往電第四九〇号ニ関シ

三月十七日午後七時在仏独逸代理大使「マイエル」ハ外務省ニ出頭「パレオローグ」ニ面會シ同日其ノ本國政府ヨリ接到シタル別電第四九五号要領ノ通りノ電信ヲ手交シタル上「ルール」地方五十料ノ中立地帯内ニ軍隊ヲ増派シタキ処同地方ノ事態時々險惡トナリツツアルニ顧ミ至急何分

ノ回答ニ接シタキ旨ヲ述ベテ引取りタル趣ナリ

依ッテ三月十八日午前大使會議ノ日程ニ入ルニ先チ本問題ヲ議シタルガ前回同様「ミルラン」特ニ議長トナリ白耳義大使モ出席シタリ「ミルラン」ハ右ハ条約第四三条第四四條ニ反スル要求ナルヲ指摘スルト共ニ先ヅ「フォッシェ」元帥ノ意見ヲ求メタルニ同元帥ハ独逸政府ノ要求ハ「ルール」地方ノ秩序維持ノ為ナリト称スル処

(一)自分ノ知ル限り特ニ秩序乱レ居ルモノト認メズ

(二)独逸ガ現ニ中立地帯内ニ有スル兵力數ハ条約ノ規定以上ニ上リ居リ

(三)独逸ガ兵力低減ノ為三月十日迄ニ行フベキコトヲ約束シタル処未ダ實現セラレザル次第ナルニ鑑ミ今日到底右要求ヲ聽許スル能ハズ特ニ「エーベルト」ハ「カップ」ノ徒党ヲ倒ス為自ラ「スパルタシスト」ヲ煽動シタルニ依リ国内ノ擾乱ヲ招キタルモノナルニ拘ラズ其ノ擾乱ノ為兵力増加ヲ要求スルガ如キハ独逸軍閥ノ尚蔓リツツアルヲ示スモノナルガ故ニ斷ジテ之ニ応ズルヲ得ズ從ツテ独逸ニ對シテハ条約ノ規定ヲ嚴守センコトヲ迫ルト共ニ「ルール」地方ノ秩序維持ノ為兵力ヲ必要トセバ聯合占領軍ヲ進發セシムベ

シト答ヘタリ

之ニ對シ「ロード、ダービー」ハ昨日独逸代理大使來訪ノ際其要求ニ就テハ政府ノ訓令ヲ俟テ回答スベキヲ答ヘ置キタルガ右「フォッシェ」元帥所言ノ如ク「ルール」地方ノ秩序別ニ乱レ居ラザルニ於テハ聯合側軍隊ヲ進發セシムルノ理由無シト思考ス特ニ今回独逸新政府ノ要求ニ關スル討論ノ内容ハ詳細本國政府ニ報告スルト共ニ若シ後ニ正當政府ヨリ同様ノ要求アリタル場合如何措置スベキヤニ就テモ請訓シタル次第ニ付其訓令接到迄ハ独軍タルト聯合軍タルトヲ問ハス之ヲ派遣スルニ同意スル能ハズト述ベ伊國大使モ昨日其書記官ガ独逸代理大使ノ訪問ヲ受ケタル旨ヲ語リ聯合兵力ヲ送ル為ニハ政府ノ同意ヲ得ル為可然取計フベキヲ答ヘ本使ハ条約規定中独逸軍ノ中立地帯ニ侵入スルヲ許スノ条項無ク又聯合側ニ此權利アルヲ規定セル条文モナシ故ニ聯合戰團軍ヲ進發セシムルハ純然タル政治問題トナルヲ以テ各政府ニ於テ決定スベキ所ト思考ス前回會議後政府ニ請訓シタルモ未ダ回電ニ接セズ独逸今回ノ要求ハ之ヲ拒絶スベキノミト述ベ白國大使モ回訓ヲ俟チツツアル旨ヲ述ベタリ

右ニ付「ミルラン」ハ独逸ヲシテ第四三条ニ違背スル行動ニ出ヅルヲ許ス能ハザルコトハ全会一致ノ意見ナルガ如シ但シ独逸ノ条約違反ハ単ニ右規定ノミニ限ラズ類(脱)他ニ数多シ是等「システマティック」ノ違反ニ対シ最早袖手傍觀スル能ハズ而シテ之ヲ黙過スルハ聯合國ガ一旦調印シタル条約ヲ抛棄スルヲ意味スルモノナリ故ニ独逸ニ対シテハ此上違反ノ繰リ返サルルヲ許サザルヲ警告スルト共ニ茲ニ「フォッシェ」元帥ニ訓令ヲ与ヘテ此ノ際取ルベキ軍事上ノ措置ヲ講究セシムルコト必要ナリト主張シタルニ「ロード、ダービー」ハ占領軍ノ進發ニ付テハ政府ノ訓令ニ接スル迄ハ絶対ニ反対セザルベカラズ尚独逸側ノ違反ニ対シテ採ルベキ措置ニ就テモ政府ノ訓令ヲ求メ居ルモ右「フォッシェ」元帥ノ処置ヲモ知ルコトヲ得バ政府ニ於テ決定上便宜多カルベシト述べ結局(一)單ニ參考トシテ「フォッシェ」元帥ヲシテ独逸ノ条約違反ニ対シテ採ルベキ手段ヲ講究セシムルコト(二)陸軍會議ヲシテ軍事条項ニ対スル独逸ノ違反行為一覽表ヲ作成セシムルコト(三)賠償委員會ニモ依頼シテ賠償条項ニ対スル独逸ノ違反行為ヲ挙ゲシムルコト(四)明(五)日夕刻迄ニ英國政府ヨリ反対ノ訓令無キ限り在仏独逸代理

大使ニ対シテハ其ノ申出ヲ拒絶スル旨通知スル旨決議シタル二十日午前再ビ本日ノ問題ヲ審議スルコトシタリ
英米独伊ニ転電セリ

(別電)

三月二十日在仏国松井大使發内田外務大臣宛電報第四九五号
在仏独逸代理大使ヨリ仏国外務省ニ提出セル本國政府ノ訓電要領

第四九五号

(三月二十一日接受)

Renap-Weuphalien 工業地方ヨリノ發電ニ拠レバ其ノ東部方面ニ一騷擾起ニ Derne, Beten, Hagen 地方ニハ「ソヴィエット」政府樹立セラレテ正当政府ハ無能力トナリ同地方ニ在リタル軍隊ハ民衆ノ為其ノ武器ヲ奪ハレ虐待ヲ受ケ又 Better ニ於テハ砲台破壊セラレ守備ノ將校及士卒若干殺サレ砲ハ暴動者ノ手ニ販シ Herne 大隊モ亦同様ノ運命ニ遇ヘリト謂フ独逸軍事委員ハ右地方ニ軍隊輸送方ニ関シ「ノレー」將軍ニ同意ヲ求メタルモ同將軍ハ之ヲ拒ミ尚其ノ他ノ要求アリタルモ右ハ未ダ承認セラレザル人ヨリ出デタルモノトシテ均シク之ヲ拒メリ
尚「ゲッペルト」ハ本件独逸軍隊派遣方ニ関シ至急其ノ筋

ニ申入レラレ度ク「ノレー」將軍ノ態度ニ鑑ミ本件要求ハ正当政府即チ「エーベルト」「パウエル」政府ヨリ出デタルモノナリ軍隊派遣ハ焦眉ノ急務ニシテ若シ遅ルル時ハ暴動ハ經濟上尤モ重要ナル工業地方ニ益々拡大セラルルニ至ル可キコトヲ注意セラル可シ
在英米独伊ヘ転電セリ

八二二 三月十九日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルール地方騷擾鎮圧ノ為仏國側提議ノ強制手段ヲ英伊兩國ガ承認ノ場合ニ対スル我方ノ態度ニ関シ稟請ノ件

第四九八号

(三月二十一日接受)

往電第四九〇号並第四九四号ニ関シ

大使會議ニ於テ英伊ノ態度ニ鑑ミルニ兩國共未ダ占領軍進發ノ必要ヲ見ザルモノノ如ク從テ俄ニ仏國側提議ニ同意スベシトモ思考セラレザルモ事實「ルール」地方ニ騷擾起リテ秩序乱ルル時ハ之ニ隣ル聯合軍占領地方ノ秩序維持ノ上ヨリモ右「ルール」地方ヲ占領スルノ止ムヲ得ザル事態ニ立至ルコトモアルベク將又独逸側ニ於テ今後トモ引続キ条

一三 独逸ノ対独平和条約違反ニ関スル件 八二二 八二三

約違反ノ嫌ヲ繰返ス場合ニハ条約全体ノ履行ノ保証トシテモ右占領ヲ実行スルカ又ハ「フォッシェ」元帥ヲシテ考案セシメントスル何等強制手段ヲ取ルノ(止ムヲ得ザ)ルコトモアルベシ右ノ場合独逸側ガ斯カル措置ヲ敵対行為ト見做シ為ニ此処ニ再ビ聯合側ト独逸トノ間ニ戦争状態ヲ惹起スルガ如キコトアラバ本邦ニ取リテモ慎重ノ考慮ヲ加フルヲ要スル次第ナルモ現下独逸ノ情態ニ鑑ミルニ独逸ハ随分強硬ナル抗議ヲ為スコトアルベキモ直チニ之ヲ以テ戦争再開ト為スコトモ無カルベク故ニ英伊共同意ノ上前頭手段ヲ取ル場合ニハ本邦ノミ之ニ反対スル理由無キノミナラズ之ヲ以テ条約全体ノ履行ノ保証ト為スヲ得バ本邦モ亦其ノ利益ニ均霑シ得ルモノト思考ス故ニ本件ニ付何等御訓令ニ接スル前各國ガ右強制手段ヲ承認スル場合ニハ前述ノ趣旨ヲ願慮シタル上政府ノ同意ヲ条件トスルヲ明カニシテ賛成スルノ外無シト思考スルニ付右予メ御承認相成タシ
在歐米各大使ヘ転電セリ

八二三 三月二十一日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルール問題ニ関シ大使會議ニ於テ討論続行ノ

件

別電 三月二十四日松井大使宛内田外務大臣宛電報第

五〇五号

フォッシェ元帥提出ノ覚書要領

第五〇四号

(三月二十三日接受)

往電第四九四号ニ関シ

三月二十日大使会議ノ日程ヲ議シタル後「ミルラン」出席ノ下ニ前回ニ續ク意見ノ交換ヲ行ヒタリ

先ヅ「ミルラン」ハ聯合側ヨリ進ンデ「ルール」ヲ占領スルノ件ニ付各国政府ヨリ訓令接到セリヤヲ尋ネタルニ対シ英大使ハ抑大使會議ハ条約ノ解釈適用ヲ以テ其ノ本務トスル処条約ニ規定スル所ニ依レバ聯合側モ亦独逸側モ「ルール」地方ニ兵ヲ進ムルノ權利無シ此点ニ付条約ヲ變更セントセバ夫々各政府ノ決定スベキ所ニシテ自分ハ何等ノ權限ヲ有セズ而シテ本問題ニ関スル英國政府ノ回答ハ自分ハ大使會議ノ一員トシテノ資格ニ於テニ非ズ在仏英國大使ノ資格ニ於テ既ニ仏國政府宛伝達シタル旨ヲ答ヘ「ミルラン」ハ大使會議ノ權限ニ付テハ条約ノ解釈及其ノ履行ヲ監視スルニ在リト解スルヲ以テ独逸側ニ於テ条約ノ履行ヲ怠ルニ當リ

テハ之ニ対シ条約ヲ尊重セシムル為適當ノ措置ヲ講ズルコトヲ得ルモノト認ム而シテ如何ナル措置ヲ執ルヤニ付キテハ条約賠償編附屬書第二第十八項ニ基キ或ハ保障物件ノ差押又ハ土地ノ一時占領何レモ可ナルベク之等措置ノ妥當ナルハ各国歴史ノ示ス所又國際法ノ公認スル所ナリト述べ今朝仏國賠償委員ノ報告ニ依ルニ独逸賠償委員ヨリ「エッセ」地方不穩ノ狀況ニ顧ミ独逸政府ハ軍隊増派ヲ希望シ居ルニ付仏國賠償委員ヨリモ右独逸ノ希望聽許ニ付尽力アリ度キ旨ヲ附言シタリ伊太利大使ハ伊太利政府ハ「ルール」占領ニ参加スル能ハザル旨本國政府ヨリ回答アリタリ而シテ前頭賠償編ニ規定スル手段ヲ執ルヤ否ヤ亦政府ノ決定スベキ所ナリト認ムル旨ヲ述べ本使ハ未ダ政府ノ回訓ニ接セザル旨並ニ私見トシテ前回同様ノ意見ヲ述べ白國大使ハ同國政府トシテハ目下「ルール」ヲ占領スルハ其ノ時機ニ非ザルノミナラズ却テ独逸人心ノ激昂ヲ招クヲ以テ危險ヲ伴フモノト解スルモ聯合側ニ於テ之ヲ決行スルニ當リテハ白國又之ニ参加スベキ旨回答アリタルヲ述べタリ爰ニ於テ「ミルラン」ハ「ルール」占領ノ件ニ付キテハ大使會議之ヲ決定スル能ハザル旨意見一致セルモノノ如シ但シ「フォ

ッシェ」元帥ノ新提議ハ如何ニスベキヤトテ本朝同元帥ヨリノ提出セル別電第五〇五号要領ノ通りノ覚書ニ言及シタルニ英大使ハ其ノ重要問題ナルニ顧ミ之ヲ政府ニモ移牒スベク大使會議ハ次回ニ於テ右覚書ヲ審査スルコトトス可シ但シ「フォッシェ」元帥ハ結論トシテ戦争再開ノ外無シトセルモ之ガ為ニハ充分ナル法律上ノ根拠ヲ有スルト共ニ實際ニ於テ其ノ強力ヲ準備スルノ必要アル可シト注意シタルニ「ミルラン」ハ本件討議ヲ次回ニ延期スルハ異存ナキモ「フォッシェ」元帥ノ軍事會議ガ五國會議ヨリ与ヘラレタル權限ニ基キテ作成シタル覚書ヲ更ニ審議セザル可カラズトセバ同軍事會議ヲ存置セシムル理由無キニ至ル可シ而モ右覚書ハ一定期限内ニ独逸ガ最重要ナル条項ニ対シ其ノ履行ヲ怠リタルヲ示スモノナルヲ以テ次回ニ於テハ之ヲ基礎トシテ(一)独逸ニ対シ何等申入ヲナス可キカ(二)之ガ為何等強制手段ヲ準備スベキカ(三)或ハ之ヲ放任スベキカニ

付協議シ度シト述べ「フォッシェ」元帥ハ右覚書ハ敢テ戦争再開ヲ主張スルモノニ非ズ唯独逸ノ条約違背ノ事実ヲ指摘シタルノミ然モ右ハ賠償条項等ニ依リ受ク可キ金額ノ多少ノ如キ問題ニ非ズ独逸ガ条約ニ違反シテ尚一万二千五百

ノ大砲ヲ藏シ百万ノ兵ヲ擁シ即チ聯合側以上ノ兵力ヲ以テ何時ニテモ戦争ヲ再開シ得ル地位ニ在ルヲ云フモノナリ故ニ今独逸ニ対シ条約履行ヲ逼ル為何等申入ヲ為シ独逸之ヲ拒ミテ戦争ヲ為サントスル場合之ヲ如何ニスベキカ各政府ハ此ノ事實其ノ他海軍条項等ニ対シ独逸ノ違反ノ事實ニ鑑ミ適當ノ決定ヲ為スコク自分ノ執ル可キ措置ハ該決定ノ範圍程度ニ從ツテ定ムベキノミト附言シタリ依ツテ右「ミルラン」提議ノ点ニ関シ来ル二十三日続テ討議スルコトニ決シタリ

尚「ロード、ダービー」ハ本使ニ対シ「ルール」地方秩序維持ニ付テハ英國政府ハ独逸軍ヲ増派セシム可シトノ意見ニテ何レモ大使會議ニ於テ決ス可キ問題ニ非ズト解シ居ル趣内話セリ

在歐米各大使ヘ転電セリ

(別電)

三月二十四日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛電報第五〇五号
フォッシェ元帥提出ノ覚書要領

第五〇五号

(三月二十六日接受)

独逸ガ許可セラレタル一定量ノ武器ノ外一切ノ武器ヲ聯合

側ニ引渡スベキ期限トシテ条約第六十九条ニ依リテ定メラレタル三月十日ハ陸軍条項ノ履行上重要ナル期日ナリ依ッテ此ノ日ヲ基点トシテ独逸側ノ義務履行ノ現状ヲ見ルニ
(一) 武備撤廃ニ付キテハ独逸側ニ於テ第六十九条ニ規定スル武器ハ敢テ引渡ラ要セズ之ヲ破壊セバ充分聯合側ノ希望ハ満足セラルベシ而シテ独逸側ハ自ラ右破壊ノ任ニ当リツツアル旨ヲ宣言シ軍事監督委員ノ抗議ニ対シテハ僅ニ右破壊シタル武器ノ一覧表ヲ交附シタルノミ即チ独逸ハ三月十日ニ於テ条約ノ重要条項ニ違背セルモノト云ハザル可カラズ

(二) 軍隊削減ニ付キテハ第六十三条ノ規定ニ依リ独逸ハ四月十日ニ於テ其ノ軍隊ヲ二十万ニ削減セザル可カラズ右期限未ダ到来セザルガ故ニ此点条約違反ノ廉無キガ如シト雖独逸ハ条約実施後漸次軍隊ヲ低減スルノ措置ヲ執ラザル可カラザルニ係ラズ三月十日ニ於テハ未ダ何等減兵実現セラレズ加之独逸ハ第七十八条ノ規定ニ違背シ Einwohnervwehr 及 Zeiteinwillige 又ハ Sicherheitspolizei ナル名目ノ下ニ警察隊ヲ組織シタルヲ以テ客年十二月五日五国会議ヨリ条約実施ト共ニ右警察隊ヲ解散セシム可キ旨抗議提

要求シ軍事監督委員ハ之ヲ(不明)個ニ削減スベキヲ主張シタルモ独逸側之ヲ承諾セズ依ッテ尚未解決ノ儘ナリ

(ハ) 独逸ノ手ニ在ル外国武器 該武器ハ野砲八百二十、迫撃砲六十六、機関銃野戦(不明)銃六十万七千有ル趣ナルニ拘ラズ三月十二日独逸側ヨリ監督委員ニ交付シタル説明表ニ依レバ右武器数量甚ダ僅少ニシテ之ヲ其儘承認スル能ハズ

右何レノ場合ニモ独逸側ハ武器ヲ狭義ニ解シ所謂 matériel de combat ノツラ計上シ Harnachement, équipement, voiture etc. 等ノ凡テノ matériel de guerre ヲ除外ス

(二) 「ライン」ノ東五十「キロメートル」ノ地帯ニ兵ヲ留ムルコトハ第四十三条ノ禁止スル所ナルモ客年八月五国会議ハ特ニ同地方秩序維持ノ為歩兵二十個大隊砲兵二個中隊騎兵十個中隊ヲ留ムルコトヲ許可シタリ三月十四日独逸政府ハ聯合側ノ同意ヲ求メズシテ右軍隊ヲ増派シ現在ハ許可セラレタル以上更ニ十三個大隊ヲ有スル趣ナリ
在欧米各大使ヘ転電セリ

出シタルモ右未ダ解散セラレザルノミナラズ寧ロ益々増員セラレツツアリ而シテ之ニ関スル秘密訓令ニ拠レバ該警察隊組織ハ密ニ軍隊組織補充ノ目的ヲ達セントスルニアリ其ノ他航空条項ニ付キテモ独逸ハ条約ニ違反シ一月十日以後ニ於テ尚航空材料ヲ製造シ又之ヲ中立国ニ向ケ輸出シタリ右事実ニ依リ軍事會議ハ独逸ガ故意ニ若クハ無力ナルガ為条約ニ違反セルコトヲ認ム本覚書附属トシテ陸軍条項各規定ニ付独逸違背ノ事実若クハ三月十日迄ニ履行セラレタル程度ヲ列挙セル二十五頁ニ亘ル説明表アリ参考トナルベキ点ヲ摘記スレバ

(一) 第六十九条ニ依リ聯合側ニ引渡スベクシテ未ダ履行セラレザルモノノ内

(イ) 独逸武器 野砲一万二千、重砲二千五百、迫撃砲三千五百、機関銃三万、銃四十五万、

右ハ本年一月五日現在ノ取調ニ係リ其以前ノモノハ独逸側ニ於テ破壊シタリト称シ而モ破壊後ノ武器材料ハ聯合側ニ帰属ストノ大使會議ノ決議ニ対シテハ独逸側今尚之ヲ承認セズ

(ロ) 武器工場 独逸政府ハ武器工場三十ヲ保留シタキ旨ヲ

八二四 三月二十二日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

最高會議ニ於テルール問題討議ノ結果独軍出

兵ヲ条件付ニテ許可スルコトニ決定ノ件

第二三九号 (三月二十九日接受)

今三月二十二日午後ノ外相大使會議中卒然「ロイド、ジョーシ」氏出席最高會議ニ移リ緊急事項トシテ「ルール」河谷出兵問題(往電第二一八号)ヲ討議セリ同首相先ヅ「ダービー」卿ヨリノ電報ニ依レバ仏国側ノ意見ハ独逸政府ノ出兵請求ノ応諾ニ同意スルモ同盟軍ニ於テ他ノ中立地帯ヲ占領シ独逸軍ガ限定期日内ニ撤退セザルガ如キ場合ニ処スルノ制裁方法ヲ執ルヲ条件トス可シトノ点ニアル趣ナル処右同盟軍ノ占領ハ独逸国民ノ敵愾心ヲ挑発シ結局「スパルタシスト」ノ氣勢ヲ激成スルノ危険アルコト「ルール」河谷ヲ占領スル場合ト大差ナキニ付断然反対セザルヲ得ズト述ベタリ「カンボン」大使ハ右仏国政府ノ意見ニ関シテハ未ダ情報ニ接セザルモ出兵許可ニ対シ一定ノ条件ヲ附スルコトハ「カーゾン」卿ニ於テモ同意見ナリト了解シ居ル処同盟軍ノ占領ニ対スル英國首相ノ反対モ尤モナリト思考セ

ラルルヲ以テ之ニ代フル一案トシテ独逸軍ニ出兵ヲ許可スルニ当リ第一出兵期間ノ明定第二独逸軍幹部ニ同盟側將校ヲ從軍セシメ其ノ行動ヲ監視セシムルコトノ二条件ヲ附スルコトトセバ如何ト提言シ結局英伊側モ之ニ同意シタルガ尚「ロイド、ジョージ」氏ヨリ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本問題ハ曩ニ巴里大使會議ノ討議ニ上リタル際松井大使ヨリ政府ニ請訓シ目下回訓ヲ待チ居ル事情ナルモ本使一己トシテハ右ノ案ニ異存無ク焦眉ノ問題ニシテ至急決定ヲ要スル事態ニ付「アド、レフェレンダム」ニテ同意ヲ表ス可シト述ベ置キタリ

尚「カンボン」大使ハ独逸ノ条約不履行及同盟側將校ニ対スル凌辱問題ニ言及シ此ノ問題ハ之ヲ巴里大使會議ニテ討議セラルル旨ナルニ付「ダービー」卿ニ対シ仏國案支援方發訓アリ度旨ヲ請求シタル処英國側ハ提案自体ノ可否ハ別問題トシ刻下「パウエル」政府危急存亡ノ際此ノ種ノ要求ヲ強フルガ如キハ實ニ実行不可能ナルノミナラズ同政府ノ威信ヲ失墜セシメ之ヲシテ益々窮地ニ陥ラシムルノ虞アルニ付是非仏國政府ノ再考ヲ請ハザルヲ得ズト反對シ「カンボン」大使ニ於テ政府ニ請訓スルコトナレリ

ト答ヘ依ッテ「ウェーガン」將軍ヨリ左ノ報告アリタリ

本日午後独逸代理大使並ニ將校二名ノ陳述ヲ聴キタルガ其ノ要スル所ハ歩兵四十八個大隊騎兵十七個中隊及砲兵四十個中隊ヲ「ルール」ニ派遣シ度シト謂フニ在リ但シ右歩兵ノ内八個大隊ハ既ニ客年八月五國會議ノ決議ニ依リ同地方中立地帯ノ秩序維持ノ為派遣スルコトヲ承認セラレタルモノナリ右軍隊ハ現ニ中立地帯ノ外郭ニ集中シツツアリテ二十四日朝迄ニハ其ノ數歩兵二十六個大隊ニ達ス可シト謂フ尚右ノ外「フランクフルト」ニ歩兵二個大隊及砲兵一個中隊ヲ派遣方許可アリ度キ旨要求スル所アリタリ独逸一般ノ狀況ニ付テハ彼等ノ語ル所ニ拠レバ東独逸ハ一体ニ平穩ニシテ「ブレスラウ」ニ於テ漸ク兵戦止ミタルモ「ステッチン」ハ今尚惶慄ノ甚ニシテ「メクレンブルヒ」「ポメラニア」ハ全然無秩序ノ状態ニアリ柏林市ハ其ノ西部及南部ハ比較的靜穩ナルモ東部及東北部ハ尚現ニ「コミニスト」ノ手中ニ在リ「ザクセン」ハ比較的平穩ナルモ極端派勢力ヲ振ヒツツアリ「バヴィエール」「ナッソー」等モ平穩ニシテ漢堡ノ狀勢ハ詳カナラズ「フランクフルト」「ルール」地方ハ不穩ナル趣ナリ尚「ルール」ニ於テハ政府軍ト「コ

討議模様詳細ハ議事録ニ依リ報告スベキモ右至急ヲ要スル事項拔萃不取敢電報ス
在仏大使ヘ転電セリ

八二五 三月二十五日 在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルール地方ニ増兵方独逸政府ノ希望申出ニ対シ大使會議ニ於テフォッシユ元帥英國大使等ノ意見聴取ノ上本件審議當分延期ニ決定ノ件

第五二三号 (三月二十八日接受)

大使會議第二十四(三月二十三日)

本日ノ議題ニ入ルニ先ダチ「ミルラン」ハ去ル二十日独逸代理大使「マイエル」ノ訪問ヲ受ケタル旨ヲ告ゲ同代理大使ヨリ「ルール」地方ノ狀況ヲ報告シ同地方ニ増兵シ度キ独逸政府ノ希望陳述ノ為独逸將校ノ来巴ヲ許可シ之ヲ延見セシコトヲ求メタルニ依リ之ヲ聴許シ「フォッシユ」元帥ヲシテ右將校ト会见セシメタルヲ以テ先ヅ同元帥ノ報告ヲ聞クコトトシタリ述ベタルニ同元帥ハ「ウェーガン」將軍ヲ代理トシテ会见セシメタルニ依リ其報告ヲ聴カレ度シ

「コミニスト」トノ間ニ妥協成立シツツアルモ其ノ如何ナル程度迄進捗シタルヤハ詳カナラズ但シ前記ノ通り政府軍ノ集中ト共ニ妥協成立スベキ望アリ故ニ或ハ之等軍隊ヲ中立地帯ニ入ルルヲ要セザルヤモ計ラレザルモ万一ノ必要ノ場合ヲ慮リ予メ之ガ派遣ノ許可アリ度キ旨ヲ述ベタリ而シテ該軍隊ノ駐屯期間ニ付テハ之ヲ予定シ難キモ先ヅ三週間トシ事態平穩ニ復スレバ右期間ヲ待タズシテ撤退セシム可キヲ述ベタルガ然ラバ右進軍及駐屯ニ対シ如何ナル保障ヲ与ヘ得ルヤヲ問ヒタルニ或ハ(一)独逸ノ他ノ地方ニモ軍隊派遣スルノ必要ヲ生ズ可キニ依リ速ニ引揚げシメ得可シトモ謂ヒ(二)訓練簡便ナル軍隊ヲ選ビタルヲ以テ別ニ問題ヲ醸スコトモナカル可シトモ述ベ又ハ(三)聯合側將校ヲ独逸軍司令部ニ派駐スルモ可ナラントモ答ヘタルガ右ハ独逸自身ニ対スル保障ニシテ聯合側ニ対シテハ何等ノ保障トモナラズ或ハ又一種ノ監督ニシテ保障トハ称ス可カラザルモノナルニ付此ノ点ヲ注意シタルニ彼等ハ権限内ニ於テ右以上ノ保障ヲ約スル能ハザル旨ヲ答ヘタリ
右報告ニ関シ「ミルラン」ハ「フォッシユ」元帥ニ対シ何等意見アルヤヲ問ヒタルニ同元帥ハ「ルール」地方聯合軍ノ

前面ニ集中セラレントスル独逸軍ハ既ニ右(脱)彼等ノ齎セル報道ノ通りナル処独逸ハ他ノ部分ニモ更ニ右以上ノ兵力ヲ藏セルコトヲ忘ル可カラズ仮リニ「ルール」地方ニ派遣セラレタルモノガ「コミュニスト」ト合体スルコトアラバ其ノ勢力益々増大スベキ処之ニ對抗スベキ聯合軍トシテ白耳義軍ノ一個師団及英軍半個師団即チ合セテ歩兵十二個大隊及砲兵十二個中隊アルノミニシテ到底比較シ得可カラザル劣勢ニ在ルコトヲ忘ル可カラズ此ノ外独逸ニハ所謂警察隊ノ外伏在セル種々ノ団体アルコトニ想到セバ独逸ハ条約規定ノ通り其ノ国(脱)未ダ撤兵セラレズシテ今尚軍事のニ強大ナル組織体ナルコト明カナリ故ニ自分ハ聯合側各政府ニ対シテ此ノ点特ニ警戒ス可キヲ求ムルト共ニ独逸ニ対シ条約ノ絶対完全ナル履行ヲ逼ルニ非ズンバ其ノ結果如何ナルベキヤ到底予想シ得ザルモノアルコトヲ注意セントス同時ニ独逸今回ノ要求ニ対シテハ条約毫無履行セラレザルガ故ニ其ノ申出ヲ聴許スル能ハザル旨ヲ回答シ然ル可シト主張シタリ

爰ニ於テ「ミルラン」ハ右報告及意見ヲ斟酌シテ本日ノ議題タル軍事會議提出ノ覚書(往電第五〇四号及第五〇五号

参照)ヲ審査スベキ旨ヲ宣シタルニ英国大使ハ本国政府ノ回答接到シタリトテ首相會議ニ於テハ往電第四五六号聯合監督委員等ニ対スル独逸官憲ノ暴行ニ関スル「フッキンユ」元帥ノ提議ハ且下独逸政府ノ地位及独逸兵ノ態度詳カナラザル今日日本件独逸ニ申入ルルモ恐ラク其ノ目的ヲ達スル能ハザル可キニ依リ暫時時機ヲ俟ソクテ往電第五〇五号ニ付テハ英国政府ニ於テハ独逸側ニ之ヲ提示シテ之ヲ強要スルノ必要ハ之ヲ認ムルモ之ガ為ニハ必要ナル強制手段ヲ講ジテ之ニ備ヘ置クヲ要シ又独逸政府ノ地位強固トナルヲ俟ツヲ要ス可シ此ノ時機至ラバ英国政府ハ再ビ本問題ノ審議ヲ辞セズトノ趣旨ノ電報ヲ朗読シタリ次デ伊国大使ハ独逸ニ対シ其ノ条約不履行一覽表ヲ提示シテ其ノ説明ヲ求ムルコトハ大使會議ノ權限内ニアリト認ムルモ英国政府ニ於テ延期ヲ主張スル以上其ノ時機ヲ俟ツコトスル外ナカル可ク將又独逸ノ不履行ニ対シテ執ル可キ強制手段ニ付テハ英国政府ノ意見ヲ諒トスト述べ本使モ伊国大使ノ意見ニ賛成ノ意ヲ表シタルヲ以テ結局本件ハ当分審議ヲ延期スルコトニ決セリ

英仏独伊ヘ転電セリ

八二六 三月三十一日 内田外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛(電報)

ルール地方鎮庄ノ強制手段ニ付英伊兩國同意
ノ場合我方モ賛成シ差支無キ旨回訓ノ件

第二六九号

貴電第四九八号ニ関シ

「ルール」地方占領問題ニ関聯シ英伊兩國共同意ノ上聯合側ニ於テ独逸ニ対シ何等カノ強制手段ニ出ヅル場合ニハ之ニ賛成セラレ差支ナシ

在欧米各大使ヘ転電アリ度シ

八二七 四月三日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルール地方ヘノ独軍増派ニ対シ仏国反対ニ付
独逸委員來訪シテ日本政府ノ考量方懇請ノ件

第五九七号

(四月五日接受)

「ルール」地方独逸軍増派問題ニ関シ其ノ後新聞ノ報道ニ拠レバ在仏独逸代理大使ハ屢々「ミルラン」ヲ訪問シ右軍隊増派ノ件ニ付懇請ノ次第アリ仏国ハ一定条件ノ下ニ独逸増派ヲ許ス可キ話合モアリタルヤニ伝ヘラレタルガ「ミル

一三 独逸ノ対独平和条約違反ニ関スル件 八二六 八二七

ラン」ハ同代理大使宛三月三十一日附書翰ヲ以テ仏国ハ目下ノ処独逸軍ノ増遣ハ無益ニシテ危険ナリト思考スルニ付独逸ノ要請ヲ聴許スル能ハズトノ趣旨ヲ以テ回答シタル趣ニテ同書翰全文發表セラレタリ

四月二日独逸委員「ゲッペルト」ハ本使ヲ來訪シ本問題ニ関シテハ仏国政府ハ三月二十九日書面ヲ以テ独逸側ノ希望ニ対シ二週間若クハ三週間ノ期間後独逸軍ヲ撤退セシム可キ条件ノ下ニ之ヲ聴許スベク右期間経過後尚撤退セザルニ於テハ聯合側ニ於テ進ンデ「フランクフルト」「ハナウ」「ホンブルグ」「ダルムシュタット」ヲ占領スベキ旨ヲ通知アリタルモ若シ聯合側ノ進発占領ヲ見ル場合ニハ独逸政府ハ到底其ノ地位ヲ支フルコト能ハザルニ依リ更ニ仏国政府ノ再考ヲ請ヒ置キタル処其後「フォッシユ」元帥ヨリ故障申出アリタル趣ニテ本件全然之ヲ聴許セザル旨三月三十一日ノ回答ニ接シタリ然レドモ仏国側ニ於テ一旦主義上独軍増派ヲ承認シ問題ハ単ニ実行方法ニ過ギザル次第ハ既ニ独逸政府ニ通報シ政府ハ之ヲ公表シ事態鎮靜ノ為利用シ居リタル次第ナルニ付折返シ右要請ヲ拒絕セラルルニ於テハ政府ノ立場益々困難ヲ極ムル次第ニシテ他方「ルール」地方

住民ニ対スル「コミュニスト」ノ態度益々横暴ヲ極メ政府ノ官吏ハ職務ヲ執行スル能ハズ銀行ハ金庫ヲ掠メラレ公共私人ノ財産共ニ横領セラレ居ル実情ニテ軍隊派遣ハ益々急ヲ告ゲ居ルニ依リ其ノ後モ繰返シ仏国政府ノ好意アル考量ヲ求メツツアルモ事固ヨリ聯合側全体ノ同意ヲ要スル問題ナルニ付本使ニ於テモ然ル可ク考量アリ度キ旨懇請アリタリ之ニ対シ本使ハ右独逸側ノ要求ハ条約上之ヲ許可スベキ何等ノ条項ナキヲ以テ直チニ条約違反ノ問題ヲ生ズベク飽ク迄モ聯合側一致ノ同意ヲ必要トス而シテ本問題ニ付最も利害ヲ感ズルコト深キハ仏国ナル処仏国側ニ於テ右ノ如ク反対アリテハ如何トモ為シ難ク日本トシテハ本件仏国ノ如ク直接ノ利害ナシト雖モ条約実施ノ見地ヨリシテハ飽ク迄其ノ履行ヲ逼ラザル可カラザル旨ヲ述べタルニ「ゲッペルト」ハ本件許可ナキニ於テハ独逸政府ノ存在困難ニシテ政府顛覆セバ条約実施モ問題トナラザル可シト答ヘタリ依ツテ本使ハ「ルール」地方ニ於テ政府軍ト「コミュニスト」トノ間ニ妥協成立シツツアル趣新聞ニ報告セラレツツアル旨ヲ述べタルニ「ゲ」ハ仏国側等ニハ常ニ同地方ノ実情正確ニ報ゼラレズ而シテ右妥協成立モ余程難シク一方「コミ

ュニスト」ハ暴行ヲ逞シクシツツアリテ今日ハ軍隊派遣ノ外事態鎮圧ノ途ナキヲ訴ヘ尚伊太利大使ヲ訪問シタルニ同大使ハ本件本國政府ニ伝達スベキヲ答ヘタル旨附言シタリ依ツテ本使モ亦本問題素ヨリ之ヲ政府ニ取次グ可キモ電報往復ニ多数ノ時日ヲ要シ急速ノ間ニ合ハズ而モ英國大使モ暫ク帰英セル今日本件急速一致ノ同意ヲ求ムルハ困難ニシテ結局独逸政府トシテハ前述地方の妥結ニ依リテ事態ヲ收拾スルノ外ナカル可キヲ述べ置キタリ

本件往電第五二三号報告以来大使會議ノ議ニ上ラザリシガ其ノ間仏国ハ直接英國トノ間ニ交渉ヲ試ミ居ル模様ニテ前顯仏国側ヨリ期限ヲ附シ条件附ニテ独逸ノ要求ヲ聴許セントシタル如キモ英國側トノ話合ノ上ノコトナル可シト察セラル本使モ日本ニ關係ナキ限り大勢ニ順応ス

在欧米各大使ヘ転電セリ

八二八 四月三日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独軍ノルール増派ハ条約違反ナルニ付之ガ制裁ニ関シ日本政府ノ協力得度旨ノ日本政府宛
申出ヲ仏国政府ヨリ在本邦同国大使宛電報ノ

件

第六〇一号

(四月六日接受)

四月三日仏国政府ハ在本邦同国大使宛左記電報ヲ發シ帝國政府ヘ轉達方取計ハシメタル趣ニテ同日夜仏国外務大臣ヨリ本使宛右電報ヲ送附アリタリ但シ右ハ各政府宛同文ノ通牒ヲナシタルモノト思ハル

本大臣ハ四月三日午後七時独逸代理大使宛左記書簡ヲ發シタリ

四月二日附拙信ヲ以テ自分ハ不当ニ「ルール」地方ニ侵入シタル軍隊ヲ即時撤退方貴代理大使ヨリ独逸政府ニ対シ折返シ伝ヘラレンコトヲ求メ更ニ仏国政府ニ於テハ予メ明白ナル同意無クシテ「ヴェルサイユ」条約第四三条及第四四条ニ対スル違背ハ斷シテ容認スル能ハサル旨ヲモ附言シタリ

然ルニ「ゲッペルト」氏ハ本三日午後五時四十五分講和會議議長長書簡ヲ以テ一九一九年八月九日ノ決議ニ依リテ承認セラレタル軍隊数ヲ超過スル「ライヒスウェー」ル」ノ軍隊「ルール」地方ニ侵入シタルコトヲ承認シ以テ独逸政府ノ名ニ於テ本件ニ關スル事後ノ承認ヲ求メ来

一三 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件 八二八

レリ

他方伝フル所ニ依レハ外務次官「フォン、ハニエル」氏ハ「ノレー」(軍事監督委員長)將軍代理「バルテルミ」將軍ニ対シ独逸政府ハ「ルール」ニ対スル軍事行動ノ為集中セラレタル軍隊使用ニ関シ政府ノ「コミッセー」ル」「セスリング」氏ニ絶対行動ノ自由ヲ与ヘ中立地帯ニ対スル大軍隊ノ行動ニ就テハ自ら其責ニ任スル旨ヲ確認シタル趣ナリ(四月三日伯林電話報告)

且又中立地帯ニ於ケル政府軍ノ攻撃ハ四月二日以来開始セラレ其戦線ハ已ニ「ドルトムンド」及「デュイスブルグ」ノ北ニ達ス突然ノ攻撃ニ依リ独逸政府ハ第四四条違反ヲ為シタルモノニシテ自分ハ同条ノ嚴格ナル規定ニ対シ貴代理大使ノ注意ヲ促サント欲ス(玆ニ第四四条全文ヲ掲ク)

自分ハ貴代理大使ニ対シ後刻仏国政府ノ決定ヲ通知スヘシ

本大臣ハ日本政府ニ於テ自分ト共ニ即時制裁ヲ加フルノ必要ヲ認メラレ以テ仏国政府ニ貸スニ其ノ有力ナル協力ヲ以テセラルヘキヲ疑ハズ「フォッシュ」元帥ハ最早避クベカ

一〇七五

ラザル而シテ遷延ヲ許サザル軍事行動ヲ審議シツツアリ

八二九 四月六日

在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

独逸ノルール増派ニ対シ仏国政府ノ執リタル

軍事行動ニ付報告ノ件

第六一二号

(四月八日接受)

第一、仏国政府ハ五日附ヲ以テ在巴里独逸代理大使ニ対シ中立地帯ニ無斷侵入セル独逸軍ノ撤退ニ関スル四月二日附仏国側要求ガ今日迄満足ヲ得ザリシニ依リ聯合軍司令官ハ「フランクフルト」、「ホンブルグ」、「ハナウ」、「ダルムシュタット」、「ディールブルヒ」ヲ占領スベキコト並右占領ハ独逸軍ガ全ク中立地帯ヲ撤退シタル際ニハ終了スベキ旨通告セリ

第二、仏国政府ハ六日朝左記要領ノ communiqué ヲ發表シタリ

独逸軍隊ガ不法ニ「ルール」地方ニ侵入シタルニ関シ仏国政府ハ独逸政府ニ抗議スル為執ラザルヲ得ザルニ至リタル其ノ態度ニ就キ在外仏国使臣ヲシテ左ノ通り説明セシムルコトトシタルガ其ノ態度ハ仏国首相ガ議會ニ於テ宣言シタ

場合リハ之 casus foederis ト見做スロトヲ規定セル所以ナリ右独逸軍隊ノ突然ノ攻勢ニ依リ發生シタル事態ハ玆ニ仏国政府ヲシテ最早躊躇ナク執行スルヲ要スル軍事行動ヲ考量セシムルニ至リタルガ右行動ハ独逸ヲシテ条約ヲ尊重セシメントスルヲ唯一ノ目的トスルモノニシテ全然經過の性質ヲ有スルモノニ外ナラズ

第三、仏国新聞紙ハ社会党系ヲ除クノ外独逸ノ条約嚴守ハ仏国生存ノ問題ニシテ「ルール」ノ出兵ハ実ニ此ノ主義上ノ大問題ニ懸レルモノトシ挙国一致シテ内閣ノ政策ヲ支持スベキコトヲ主張シ居レリ

第四、仏軍ハ六日午前五時「フランクフルト」及「ダルムシュタット」ニ入り独逸 Reichswehr ハ衝突ヲ避クル為五日夜撤退セリ

八三〇 四月十日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏軍ノフランクフルト占領ニ関シ在仏国米伊

白英各国大使トノ会談報告ノ件

第六四九号

(四月十三日接受)

仏軍ノ「フランクフルト」占領ニ関シ四月九日米米大使本使

一三 独逸ノ対独平和条約違反ニ関スル件 八三〇

ル如ク独逸ニ対スル何等敵対ノ精神ニ基キタルモノニアラズ仏国政府ハ經濟協定ノ基礎ノ下ニ不遠独逸トノ礼讓關係ヲ結び得ルコトヲ希望スルモノニシテ此ノ目的ノ為ニ真面目ノ交渉ノ開始ハ仏国政府ノ喜ブ所ナリ他方仏国政府ハ独逸政府ノ最モ困難ナル立場ニアルヲ無視セントスルモノニアラザルモ独逸政府ハ右仏国政府ノ累次ノ声明ニ拘ラズ軍閥ノ圧迫ニ制セラレ以テ「ヴェルサイユ」条約中最モ嚴肅ナル規定ノ蹂躪ヲ敢テシタリ其ノ事実左ノ如シ

「ルール」ノ軍隊暴動ニ伴ヒ三月十五日軍事官憲ヨリ最初ノ要求アリタルガ同十七日反革命政府ノ暗黙ノ同意ノ下ニ伯林ニ止マリタル外務次官「ハニール」ヨリ正当政府ノ名ニ於テ再ビ申出アリタリ然ルニ聯合側委員ハ常ニ独逸ノ軍事行動ハ事実ニ矛盾スル措置ニシテ秩序維持上反ツテ重大ナル危険ヲ醸スモノナルヲ報告シツツアリ軍備撤廃ノ条項履行セラレタランニハ三月十三日伯林ニ暴動軍隊ナルモノ存在スルコトモナカルベク又武器彈藥等ガ赤軍ノ利用スル所トナルコトモアラザリシナルベシ条約第四二条及第四四条ハ仏国ノ為絶對必要ナル保証ニシテ之レハ、英、米保証条約第一条ニ於テ右条項ガ仏國ヲ保護スルニ充分ナラザル

ヲ来訪シ今回仏国政府ノ執リタル措置ニ付キテハ米米政府ヨリ未ダ何等回答ナク多分自分ヨリノ情報ヲ俟チ居ルモノト思考スル処此ノ儘推移スル時ハ如何ナル椿事ノ發生スルコトアルヤモ計リ難ク何トカ事件ノ結末ヲ着クルノ方便ナキヤ日本政府トシテハ何等態度ヲ決シタルヤト問ヒタルニ付本使ハ同氏ニ対シ仏国政府ヨリ申出(往電第六〇一号)ニ対シテハ未ダ政府ヨリ何等訓令ニ接セズ本使限りノ意見トシテハ英國政府ガ仏國ノ行動ニ対シ如何ナル回答ヲ与ヘタルヤ詳カニセザルモ仏国政府トシテハ独逸ガ違法ニ中立地帯ニ軍隊ヲ侵入セシメタルニ対シ内政ノ關係ヨリ謂フモ之ヲ黙過スル能ハザリシナル可ク從ツテ今日各国ヨリ仏國ニ対シ其ノ單獨ノ行動ニ出デタルヲ責ムルハ道理アルコト乍ラ感情ノ点ヨリスレバ聊カ氣ノ毒ナル心持アリ故ニ英國政府ニテモ余リ強ク之ヲ咎メザランコトヲ竊ニ希望ス然レドモ一方独逸ハ中立地帯ニ於ケル軍隊駐屯期間延長ヲ申出居ル位ナルヲ以テ(往電第六四七号)聯合側ヨリ何等ノ措置ニ出デザルニ於テハ侵入シタル軍隊モ其ノ儘居据ル可ク独逸軍隊ニシテ引揚ゲザル限り仏國軍隊モ新タナル占領地ヲ撤退セザル可シ斯ノ如キ事態ノ繼續ハ到底容認シ能ハザル

所ナルヲ以テ相当時機至ラバ聯合側ハ先ヅ独逸ニ対シテ軍隊撤退ヲ強要シ以テ仏国軍隊ヲモ自然引揚ゲシムルノ策ニ出ヅルノ外無シト思考ス但シ右ノ場合独逸言ヲ左右ニ託シテ軍隊ヲ撤退セズ從ッテ仏国側モ引揚ヲ肯ゼザル場合之ヲ如何ニスベキヤ將又独逸ノ条約違反ノ廉ハ単ニ今回ノ軍隊侵入問題ノミニ止マラザルガ故ニ其ノ違反ノ全部ニ対シ如何ニシテ其ノ誠実ナル履行ヲ強要スベキヤニ付キテハ別ニ考究ヲ要スル問題ナル可シト答ヘ置キタリ

本十日國際聯盟理事会ノ際理事トシテ出席シタル在仏伊太利大使ハ本使ニ対シ右問題ニ付何等新事態ノ發生ナキヤヲ尋ネタル後伊國政府トシテハ仏國ガ聯合側一致ノ了解ヲ待タズシテ単独ニ行動シタルニ対シテハ不同意ナリ既ニ伊太利ハ今尚聯合側ノ一致ヲ得シガ為「フューメ」ニ対シ敢テ単独行動ニ出デザリシ位ナルモ右伊國ノ意見ハ在伊仏國大使ニ対シテ回答スル筈ニテ自分ヨリハ仏國政府ニ対シ特ニ意見ヲ述ベザル積ナリト語リタルガ別ニ同ジク理事会ニ出席シタル在仏白耳義大使ハ本使ニ対シ仏國ノ新聞紙等ニテ英國ニ対シ盛ニ不平ヲ稱ヘ居ルハ甚ダ遺憾ナルガ目下ノ事態收拾ノ為(仏國輿論ノ英政府ノ態度ニ不滿ナルハ往電第

側回答ハ聯合國ノ同意ヲ得シガ為ニハ仏國政府ハ其ノ為シ得ル限ヲ尽シ居リタル処独逸軍ノ侵入ト共ニ仏國國防上今回ノ行動ヲ執ルノ已ムヲ得ザルニ至リタルモノナリ故ニ独逸軍隊「ルール」地方ヲ撤退スルト共ニ仏國軍隊モ亦直チニ引揚グベシト云フニアリ之ニ関シ英國大使ハ自分限ノ意見トシテハ自分ガ大使會議ニ参与スベカラズト云フガ如キ政府ノ訓令ハ甚ダ感心セザル言ヒ分ナレドモ之ニ由リテ行動スルノ外ナク今後ノ大使會議ニ於テモ對独条約ノ實施ニ関スル問題ハ之ヲ除外セシメザルヲ得ザル旨ヲ語リ本使ヨリ右ノ如ク文書ヲ往復シテ事態ヲ其ノ成行ニ放任シ得ザルヤヲ問ヒ返シタルニ同大使ハ自分限ノ意見トシテハ「ミルラン」今回ノ措置ハ「フォッシュ」「ポアンカレ」等ニ迫ラレ内政上已ムヲ得ズ取りタルモノト察セラル但シ此ノ事態ハ勿論放任シ得ベキモノナラズ今後十日モ經過セバ先ヅ独逸軍撤退ヲ強要実行セシメ竝仏軍ヲ引揚ゲシムル外ナカルベシト考ヘラルル旨答ヘタルヲ以テ本使ハ右ハ昨日米國大使ニ対シ本使ノ述べタルト全然同意見ナル処之ヲ日本政府ニ報告シ差支ナキヤヲ問ヒタルニ同大使ハ右ハ全然一己ノ私見ヲ述べタルモノナレバ何等拠リ所アルモノトセラ

六四五号所報ノ通り)日本ヨリ可然調停ヲ試ミラレテハ如何ト述べタルコトアリ右ノ通り各大使トモ今回ノ出来事ニ対シ鮮カラズ心痛シ居ルニ付旁々英國政府ノ意向ヲ確ムルノ要アルヲ認メタルヲ以テ本日午後英國大使ヲ往訪シ同政府ノ意見如何ヲ尋ネタルニ同大使ハ全然本使限内密ノ含トシテ仏國政府ニ交附シタル英國政府意見書及之ニ対スル仏國政府ノ回答要領ヲ英國政府宛電報セルモノノ写ヲ示シタルガ英國政府ノ意見ハ聯合側ヨリ進ンデ「ルール」ヲ占領スルノ問題ニ就テ英國及其他ノ同盟國ハ屢々反對意見ヲ表明シタル所ニシテ独逸ニ対シテハ「フォッシュ」元帥ノ指定スベキ一定条件ノ下ニ「ルール」ニ於ケル其ノ行動ヲ承認スベキモノナリシナリ条約ノ履行ニ関シテハ今後トモ重大ナル問題發生スベキ処斯ル問題ハ聯合側協同シテ始メテ解決シ得ベキモノニシテ単ニ一國ノミニテハ之ヲ取扱ヒ得ザル場合アルベシ故ニ仏國ニ於テハ今後再ビ單独行動ニ出デザルベク然ラザレバ講和會議ノ事業ハ徒勞ニ終ルベシ而シテ仏國ニ於テ今後聯合側ト歩調ヲ一ニスルノ保障ヲ与ヘザルニ於テハ条約實施ノ問題ノ關スル限り英國ハ大使會議ニ其ノ大使ヲ出席セシメズト謂フニアリテ之ニ対スル仏國

ルルハ支障アルモ偶然貴大使ト同意見ヲ述ベタリトシテ報告セラルルニハ何等差支ナシト答ヘタリ

尚余談トシテ本使ヨリ仏國ハ独逸ノ侵略ニ対シテハ過去ニ鮮カラズ苦キ經驗ヲ嘗メ居ルコトトテ今回独軍ノ侵入ニ対シテモ甚ダ神經過敏ナルガ之モ亦無理カラスコトカト思ハレ英國ニテモ日本ニテモ同様ノ立場ニ在リタランニハ仏國同様ノ措置ニ出デタルヤモ計ラレズト述べタルニ英國大使ハ全ク同感ナリト云ヒ仏國政府ノ遣リ方ハ理由トシテハ尤モナルモ形式ニ於テ足ラザリシ所ナリ本日ノ談話ハ全然自分一己ノモノナレバ其ノ積ニテ聞キ置カレタシ尤モ兩國政府間ノ行違ハ其内何トカ纏マルベシト云ヘリ

因ニ唯今接到シタル次回大使會議ノ日程ニハ對独条約ニ関スル問題ハ一切除外セラレ居リ

在歐米各大使ヘ転電セリ

註 松井大使四月十日發第六四五号及第六四七号省略セリ

八三一 四月十二日

在瑞西國天羽臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏國ノルール出兵ニ關スルウィーン來電及日
本ノ態度ニ關スル瑞西新聞報道ニ付報告ノ件

第四八号

(四月十三日接受)

四月十日發維也納來電ニ依レハ同市各新聞ハ「ルール」事件ニ関スル英仏意見ノ扞格ノ報道ヲ非常ノ満足ヲ以テ迎ヘタリ仏國力独断ニテ出兵セルハ非常ナル誤策ナルヲ以テ英米諸國ハ単ニ仏國ノ態度ニ対シテ不賛成ノ意向ヲ表示スルニ満足セス進ンテ其ノ出兵ヲ制止シ無辜ノ流血ヲ防クヘキナリト論セルハ同市言論界ヲ代表セルモノト見做シ得ヘシト云フ尚本件ニ対スル日本ノ態度ニ付テハ昨十一日ノBasler Nachrichtenハ九日發巴里特電トシテ日本ハ伝統的政策ニ依リ英國ト歩調ヲ一ニスヘシト報セシカ今十二日当國ノ諸新聞ハ「アヴァス」來電トシテ日本政府ハ仏國ノ行動ノ成功シタルヲ祝シ其ノ出兵ニ対シテ何等異議ナキ旨ヲ東京ニ於テ發表シタリト記載シ居レリ

八三二 四月十五日

在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

仏軍ノフランクフルト等占領ニ関シ仏國高級
將校ノ懷抱スル對独政策ナルモノニ付ウォル
フ通信社ノ報道出淵駐独代理大使ヨリ報告ノ
件

為スベキ事項少ナカラザル今日吾人ガ自由ニ行動シ得ル期間ニ成ル可ク多ク遂行シ聯合諸國ヲシテ既成ノ事實トシテ之ヲ認メシメザル可カラズ而シテ独逸ヲ(一)「バイエルン」「バーデン」「ウエルテンベルグ」「(二)「ライン」共和國(三)「ボメルン」「メクレンブルグ」「ハノーヴェル」「オルデンブルグ」「シュレスウィッヒ」「ホルシュタイン」「(四)「チューリンゲン」「ザクセン」「(五)伯林「シュレージエン」等五乃至六ノ聯合共和國ト成スヲ可ナリトシ殊ニ独逸内部ノ軋轢ハ積極的且消極的兩方面ニ於テ之ヲ利用ス

第六七六号

(四月十七日接受)

出淵ヨリ大臣宛第五〇号
仏軍ノ「フランクフルト」等占領ニ関シ独逸新聞紙上其ノ他輿論ノ激昂尚盛ナルト共ニ独國宰相「ミュルレル」ハ十二日国民會議場ニ於テ重ネテ「ルール」地方出兵ノ已ムヲ得ザリシコトヲ説明シタル後仏軍占領ノ不法ナルコトヲ痛撃シタルガ尚同日「ウォルフ」電報通信社ハ公報トシテ大要

「四月九日「マインツ」ニ於ケル占領地方高級將校會議ニ於テ對独方針ニ付論議スル所アリタルガ其ノ大綱「ライン」河占領ハ独逸軍隊ノ復讐ニ備フル為必要ニシテ又「ライン」右岸ニ於ケル「フランクフルト」及其ノ近傍「ルール」地方竝ニ「デュッセルドルフ」近傍工業地ヲ緩衝地区ト為スノ必要アリ「ケルン」及「コーブレント」共ニ四ケ年内ニ其ノ占領ヲ撤廃スベキヲ以テ其ノ以前「ライン」左岸ヲ併合スルニ非ザレバ吾人モ亦「マインツ」及「パアルツ」ヲ撤退スルノ已ムナキニ至ルベシ独逸ノ窮境ハ絶テ之ヲ利用セザル可カラズ而シテ英國ハ海岸ヨリ深ク内地ノ事項ニ干渉スルヲ欲セザルト共ニ米國モ日本及英國トノ間ニ

ベク而シテ此ノ場合独逸中流資本家及獨立社会党ハ吾人ニ共鳴スベク吾人ハ之等ヲ利用シテ他日更ニ「ルール」地方ニ騷擾勃發スル場合ニハ白耳義人ト共ニ同地ニ侵入スベキナリ云々」
ノ記事ヲ配布シ今朝刊行諸新聞ハ一齊ニ之ヲ掲載シ何レモ之ヲ以テ仏國ノ對独政策ヲ示スモノトシテ誹議の註釈ヲ加ヘ居レリ